

伐出労働力と労働組織に関する研究(Ⅱ)

九州大学農学部 遠藤 日雄

1. 昨年度の日林九支大会では、伐出労働組織としての「組」をめぐる諸家の見解を整理して論点を明確にした。すなわち「組」は再生産されているのか否か、そしてもし再生産されているとすれば、具体的にどのような形態で行われているのか、ということである。そこで本報告では、「組」の再生産のメカニズムに焦点をあてて、労働組織の重要性について検討してみる。

2. 実際に素材生産に従事している福岡県八女地方の4つの「組」の活動状況を例示したのが、表一である。最初に簡単な説明を加えておくと、次のようになる。すなわち第1番目のT「組」は昭和52年に結成され、55年からは星野村森林組合の伐出生産を請負っている。昨年度の素材生産は主伐450 m^3 、間伐が400 m^3 である。優秀な技術集団として評価が高い。次のN「組」は昭和53年に結成され、59年から星野村森林組合の伐出請負(昨年度の実績約1,000 m^3)に従事している。3番目のI₁「組」は昭和43年から矢部村森林組合の「労務班」であるが、それ以前から「組」は結成されていた。昨年度の森林組合での素材生産は300 m^3 (これとは別に製材業者の伐出請負が400 m^3)である。最後のI₂「組」も矢部村森林組合の「労務班」として活動している。昨年度の素材生産は420 m^3 (このほかに製材業者の伐出請負が400 m^3)である。

3. さてそれではこれらの4つの「組」は、どのような形で組織の再生産を行っているのだろうか。具体的にみると次のようになる。まずT「組」について。同「組」の労働者⑤は、昭和57年にT「組」を脱退した「組」員の補充として、班長が捜してきて「組」へ編入させたもので、従って経験年数は1年と浅い。伐出技術の修得は、実作業のなかで行われている。すなわち最初は各作業をひととおり見せたあと、枝払いなどの簡単な仕事から順次難しい作業へと移行させていくが、いわゆるカンや気を身につけて1人前になるためには5~6年を要するという。なお労働者⑤はいわば見習期間中であるため、他の「組」員より賃金は安い。次にN「組」の労働者④は、昭和59年8月に同「組」に加入したが、それ以前も別の「組」の一員として伐

出労働に従事していた。従って先述のT「組」の労働者⑤と異なって、技術修得の訓練は特別に受けず、また賃金格差もない。労働者④を新たに加入させたのは、3人では仕事の能率が向上しないからで、労働者②の親類ということ説得して入れたという。I₁「組」の労働者⑥は、昭和46、47年にそれぞれ転職のため同「組」を脱退した2人の労働者の穴埋めとして、班長が捜して加入させたものである。労働者⑥の場合は、15年間ほどの伐出労働の経験があるが、I₁「組」に入るまでは農林業経営に従事していたため、いわゆるウヂが鈍り、同「組」に入って3ヶ月間は見習もかねて賃金は1日当たり500円安かった。最後にI₂「組」の労働者⑤は、昭和49年に転職のため同「組」を脱退した2人の労働者の補充として、労働者③の弟という血縁関係を利用して編入した。労働者⑤はI₂「組」に加入するまで病院の車の運転手をしていて、以前7年間ほど伐出労働の経験があったため、特別に賃金格差はもうけずに、次第に組織になじむよう配慮しているのが現状である。

4. こうした組織再生産のメカニズムを可能にしている条件として、次のことが考えられる。すなわち、①素材資本による伐出労働者の雇用が、請負や出来高制のように労働の成果を買い取るという間接的なものであること。従って伐出労働過程は労働者による自主管理に委ねられており、このなかで新規参入者を鍛えることができること。②そしてその労働過程は工場にみられるような固定的な生産過程ではなく、地形や森林資源の賦存状況によって異ならざるをえない。しかも各作業の分担は、班長が造材過程を掌握している以外はかなり流動的であること。こうしたことが新規参入者に実際に作業を行わせるチャンス形成している。③これに加えて、階層間格差の少ない「組」の内部で新規参入者に対する伐出技術の伝達は、賃金格差をもうけることによって実現されている。このように、組織の再生産と技術の伝達は、素材資本と相対的に独立したところで「組」を単位として行われているのである。

表-1 T, N, I₁, I₂各「組」の組織の状況

「組」名	番号	年齢	経歴年数	「組」加入以前業	居住地	伐就労日数	「組」以外の仕事	家の状況		農地		山林	所有機械 (個人所有)	血縁関係	備考	
								本人を除く		田	樹園地					
								働き手	仕事							
T「組」	①	38歳	20年	製材所員	福岡県上賜町	日220	農業	長男	父母妻	農業	5反	茶5反	3町	トラック1台 チェンソー3台	③とイトコ	班長
	②	49歳	30年	伐出者 労働者	〃	〃	〃	世帯主	妻	〃	2反	茶4反	0.5町	チェンソー1台		
	③	48歳	15年	〃	〃	〃	〃	〃	妻長男	〃	5反	茶4反	2町	チェンソー1台	④とイトコ	
	④	56歳	30年	〃	〃	〃	〃	〃	妻	〃	2反	茶4反	0.2町	チェンソー1台		
	⑤	35歳	1年	農林業 経営	〃	〃	〃	長男	父妻	農業 学校用務員	3反	茶3反	15町	チェンソー1台		昭和57年に脱退した「組」員の補充
N「組」	①	45歳	29年	伐出者 労働者	福岡県星野村	日200	なし	世帯主	なし	なし	なし	なし	集材機1台 軽トラック1台 乗用車1台 チェンソー6台		班長	
	②	54歳	38年	〃	〃	〃	農業	〃	妻	農業	3反	茶1反	20町	チェンソー1台	④と親類	
	③	53歳	37年	〃	〃	〃	〃	〃	妻	〃	10反	茶1反	0.3町	チェンソー1台		
	④	48歳	28年	〃	〃	〃	〃	〃	妻次男	農業 森林組合	3反	茶0.3反	13町	チェンソー1台	②と親類	
I ₁ 「組」	①	48歳	32年	伐出者 労働者	福岡県矢部村	日100 (50日)	農業	世帯主	妻	農業	9反	茶3反	2町	乗用車1台 チェンソー2台		班長
	②	60歳	45年	〃	〃	〃	〃	〃	妻	〃	1反	なし	1町	チェンソー1台	①の姉	
	③	62歳	47年	〃	〃	〃	〃	〃	妻	〃	2反	茶1反	1町	チェンソー1台		
	④	60歳	45年	〃	〃	〃	〃	〃	妻3男	〃	5反	茶1.5反	0.5町	チェンソー1台	⑤のオジ	
	⑤	43歳	27年	〃	〃	〃	〃	〃	妻	〃	7反	茶4反	3町	チェンソー2台		
	⑥	53歳	15年	〃	〃	〃	〃	〃	妻長男 長男妻	〃	13反	茶3反	7町	集材機2台 チェンソー2台		昭和46年に村外へ転職した「組」員の補充
I ₂ 「組」	①	57歳	37年	伐出者 労働者	福岡県矢部村	日150	農業	世帯主	妻長男	農業 森林組合	3反	茶2反	1町	軽トラック1台 チェンソー2台	②の兄	班長
	②	54歳	35年	〃	〃	200	〃	〃	妻長男	農業 賃労働	1.5反	茶0.5反	0.3町	軽トラック1台 チェンソー2台	①の弟	
	③	50歳	30年	〃	〃	200	〃	〃	妻長男	農 役場勤務	3反	茶2反	1町	軽トラック1台 チェンソー2台	⑤の兄	
	④	49歳	30年	〃	〃	180	〃	〃	妻長男 長女	農業 森林組合 協	7反	茶4反	1町	軽トラック1台	①② ③とイトコ	
	⑤	46歳	7年	自動車 運転手	〃	200	なし	〃	妻	学校用務員	なし	なし	なし	なし	③の弟	昭和49年に脱退した2人の「組」員の補充

資料：聞き取り調査。

注：1) T「組」、I₁「組」、I₂「組」は昭和59年12月現在、N「組」は昭和60年3月現在の状況。

2) I₁「組」の就労日数の()内の数値は下列に従事した日数(外数)。